

令和8年度 苫小牧市立泉野小学校 校内研究計画

1. 研究主題

子どもと子ども 子どもと先生がつながる学校
～教育のユニバーサルデザインの視点を取り入れた取組を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 今日的な課題から

- ・スマホやAIの普及により、手軽な楽しさや課題解決が可能になったことと引き換えに、人間関係の希薄さが感じられるようになった。
- ・複雑な家庭環境や、多様性が認められる社会など子どもたちを取り巻く環境の変化が著しくなり、これまで通りが通用しない時代になった。
- ・学校教育でも、多様な授業の形や指導形態を求められるようになり、1つの教科に特化するのではなく、様々な視点から研究を進めることの必要性が感じられるようになった。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校では、「よく考え、熱心に学ぶ子ども」「明るく、思いやりのある子ども」「正しいことを進んで
する子ども」「健康で、がまん強い子ども」を学校教育目標として掲げ、そのために、「自分で考える
力」「友達のよさを認め合う力」「主体的に行動する力」「ねばり強く取り組む力」の4つの力の育
成を、目指す資質・能力と設定している。

本校の研修においては、4つの学校教育目標と深く関わりを持たせ、児童に育みたい資質・能力
の「主体性」「友達とのつながり」に関しての基盤を築く役割が期待できる。ユニバーサルデザイン
の視点を取り入れることで、児童を「ひきつける」「つなげる」授業づくりや学級づくりが展開でき
る。

このことから、本研修を通して学校教育目標の目指す子ども像に迫ることができると考える。

(3) 本校児童の実態から

昨年度、教職員アンケートを実施し、本校の児童につけたい力や伸ばしたい力を振り返った。その中で、大きく分けて「つながり」「学力」「心」の3つの側面が課題として浮き彫りにされた。そのため、ユニバーサルデザインの視点を通して、共に学ぼうとする姿勢、聞き合い、伝え合い、高め合おうとする姿勢など、つながりを大切にする集団性の向上に関すること、考える力や主体的に取り組む力、粘り強く取り組む力など学力に関すること、他者を理解する、安心感をもつ、折り合いをつけるなどの心に関することの研修を深める必要があると考えた。

このことが、子どもたちにとって、よりよく生きようとする力となり、いかに生きるべきかを自ら考える姿勢を養うことになると考えた。

以上の理由により、研究主題を設定した。

3. 研究主題のとらえ方

研究主題については、以下のようにとらえる。

「子どもと子ども、子どもと先生がつながる」

支援が必要な子のサポートだけでなく、全ての子にとって支援は必要であり、「まちがいを許し合える」「ちがいを認め合える」授業や学級づくりをすることで、子どもたちが自分自身と向き合いながら、人とのつながりや関わり方について捉えることができる。

「教育のユニバーサルデザインの視点」

「授業」「教室環境」「人的環境」の3つの柱に対して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、子どもたちにとって安心した学校生活となり、自分自身を高めようとする意欲へとつながり、人間としてよりよく生きていこうとする心をもつことができる。

4. 目指す子ども像

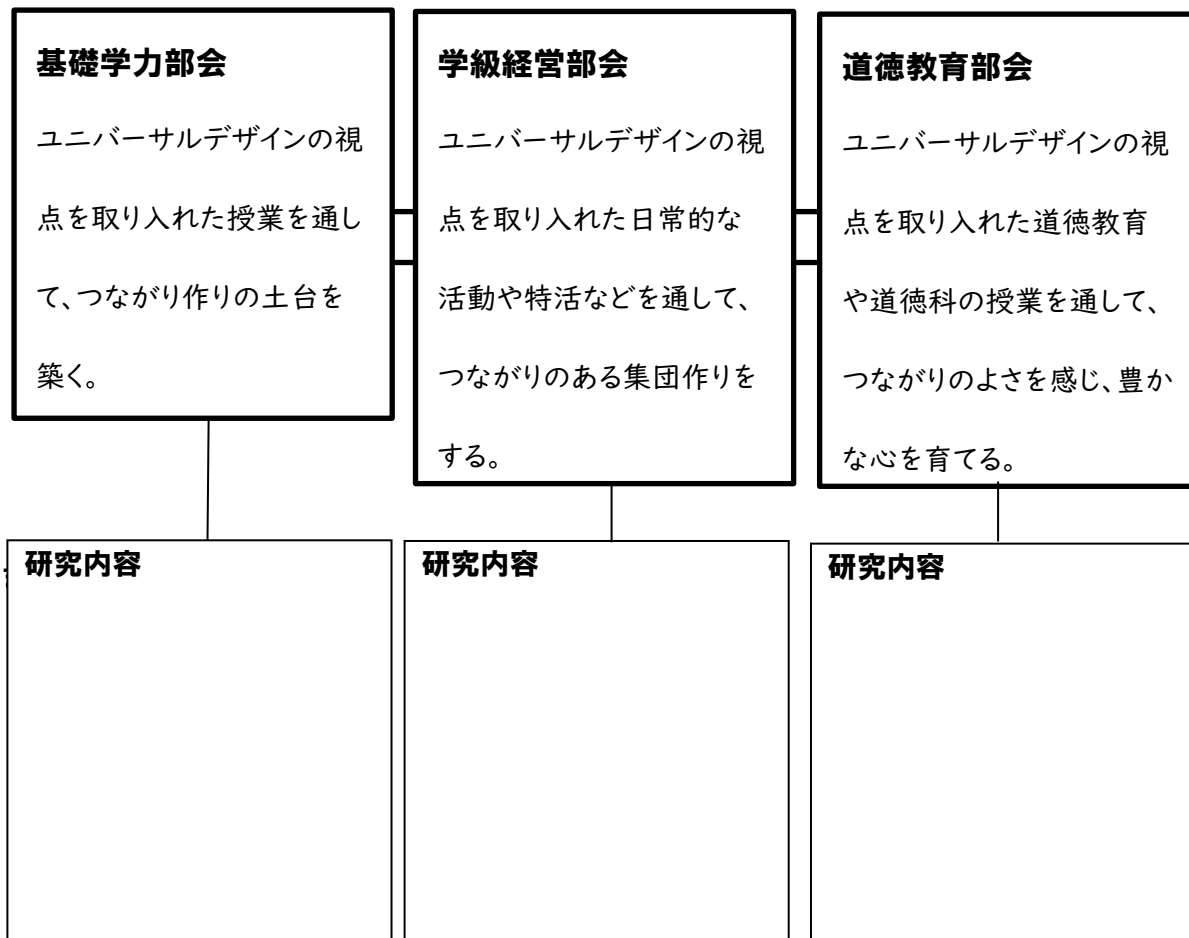
自分の考えをもち、共に学ぼうとする子ども

5. 研究の仮説と研究内容

【基本の仮説】

教育のユニバーサルデザインの視点から、つながり作りの土台を築き、つながりや一体感のある集団作りをすることで、つながりを大切にする心を育み、楽しく充実した学校生活になると共に、自分に自信をもち自分らしさを伸ばそうとする主体性を高めるのではないだろうか。また、人とつながる喜びやよさを感じ、豊かな心を育みたくましく生きる力の土台を築くことができるとのではないだろうか。

【研究内容】



6. 研究の年次計画

研究期間 令和8年4月～令和10年3月（2か年計画）